

新たな循環構造を創る！

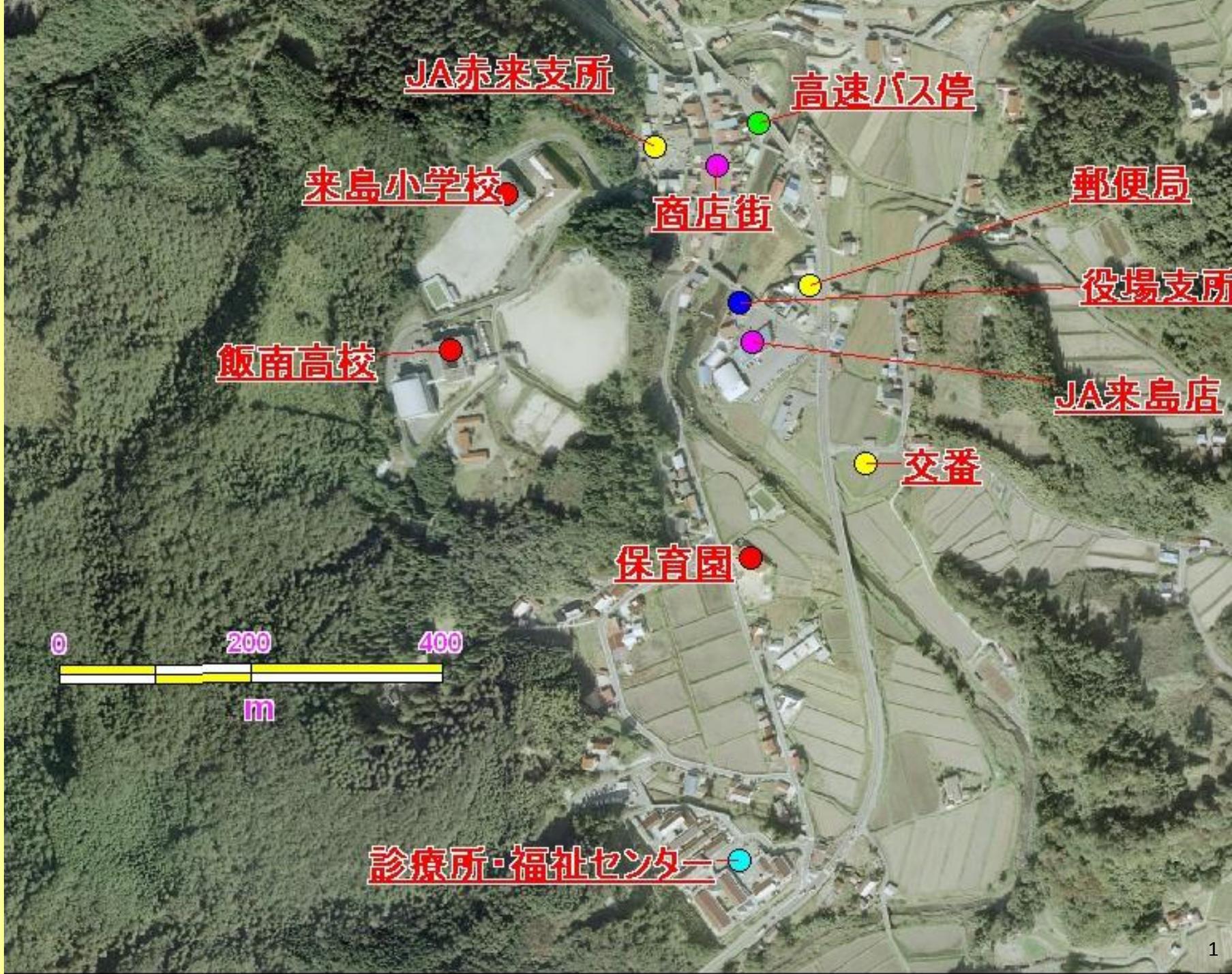
島根県中山間地域研究センター 研究統括監
島根県立大学連携大学院 教授 藤山 浩

中山間地域の「小規模・分散性」を活かす
重層的な拠点・ネットワーク構造を！

キーワードは、「縦割り」を超える「複合化」

「分散か集中か」の二者択一ではなく
「分散と集中」の統一的設計・運営へ

分散的居住に分散的な拠点配置では？



分野軸にみる交通の縦割り

事業ごとに区切られた経営状態
→車両の共有といった複合化は旅客
内・貨物内でも行われていない

人口3,000人規模の一次生活圏、2010年

旅・貨	事業名等	運営主体	運行主体	車両数・車両規模	運転人員(配達人員)
旅	市営バス	支所自治振興課	(有)	1台 	1人 
旅	スクールバス	教育委員会	(有)	1台 	1人 
貨	学校給食配送	分室	(有) 運送	1台 	1人 
旅	デマンド号	定住対策課	(有) タクシー	1台 	1人 
旅	移送サービス	支所市民福祉課	市社会福祉協議会	1台 	1人 
旅	路線バス線	(株) 交通		3台 ~    ~	3人 ~  × 3 ~
旅	患者送迎タクシー	S医院		1台 	1人 
旅	通所デイ送迎	(福) 福祉会		5台  × 2   	5人 ~  × 5 ~
旅	通所リハ送迎	(福) 福祉会		8台   × 2   × 4	8人 ~  × 8 ~
貨	郵便配達/集荷	日本郵便		5台  × 5 ( × 4 + )	5人  × 5
貨	宅急便	運輸(株)		1台 	1人 
貨	市場集荷便	JA		1台 	1人 
貨	新聞配達	M新聞販売店ほか		計7台  × 7	(15人)  × 15(徒歩有)
貨	移動販売	O商店		1台 	1人 
貨	生協	生活協同組合		1台 	1人 
貨	卸売共同配送	(有)		1台 	1人 

車内の数字は乗車定員を示す

 専任型運転手
 兼任型運転手

※専任型運転手は当該運転及びそれに伴う業務を専ら行う者、兼任型運転手は他業務との兼任などにより当該運転のみを主たる業務としない者を指す。

＜島根県立大学連携大学院生・上野氏(H23修了)との共同研究＞

ひと・もの・エネルギー
金・情報をつなぐ
「結節機能」としての
中心広場をつくる！！

幹線との
結節点整備

郷の
駅

地方都市
中心部

速い幹線系
フロー

コミュニティ
行政

教育

医療
福祉

郷の
駅

郷の
駅

レストラン、パブ
給食センター

直売市
加工、販売

郷の駅

金融

ゲートウェイセンター
情報 交通 定住 観光案内

営農・里山
ステーション
防災&土木
ステーション

エコ、リサイクル
ステーション
エネルギー
ステーション

「薪の駅」
EVチャージ

ダイヤモンド型の
新交通システム
で人もモノも

ゆったりした
域内循環系
フロー

集落A

集落B

集落C

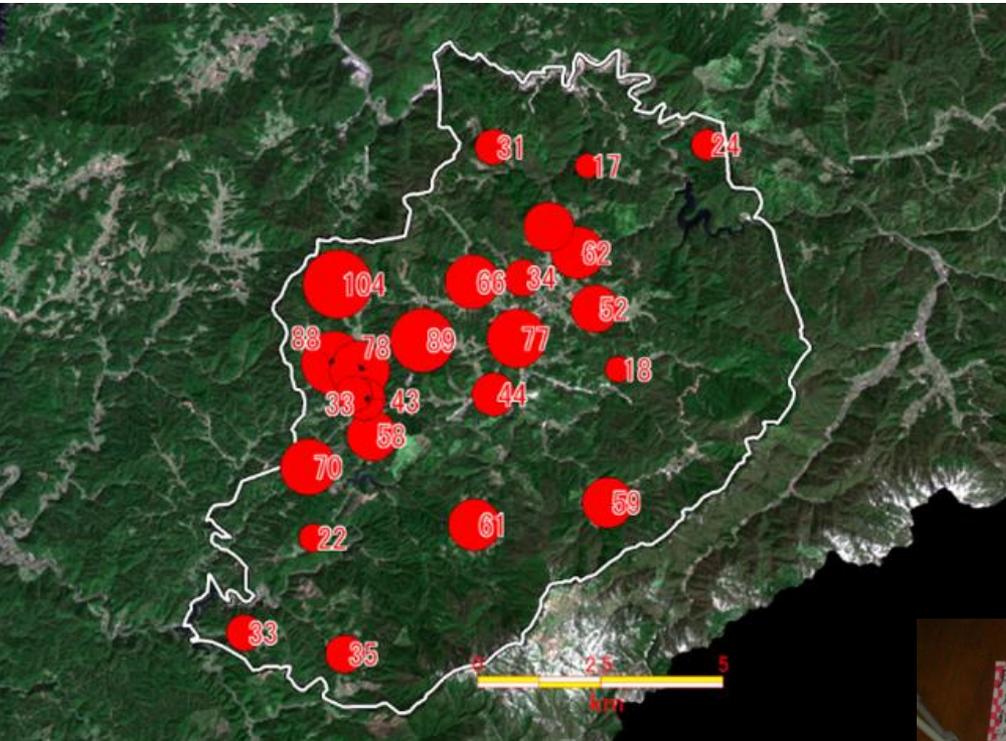
電気 our car 2号

電気 our car 1号

国土のグランドデザイン(2014年3月発表)にも、集落地域を支える新たな複合機能拠点として「小さな拠点」構想が登場



農山村の小規模ながらも多彩な豊穡さ



1,494人の村で、
栽培・加工品目は、
合計数=4,508品目
240種類、(販売:99種類)
[中山間C、2012アンケート調査より]

地元学による農家の栽培品目の
まとめ<浜田市弥栄自治区>



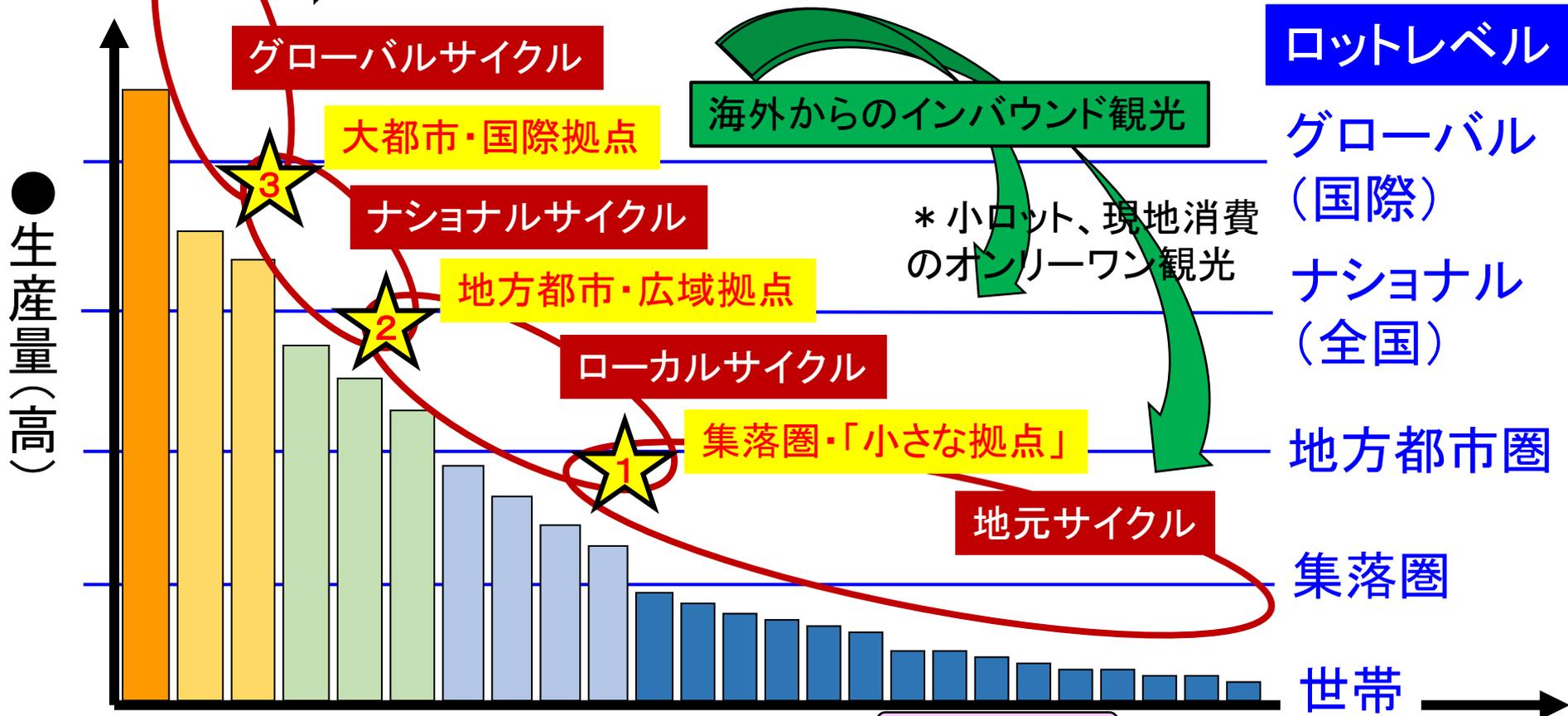
集落別の作物・加工品数
<浜田市弥栄自治区>

一軒一軒の農家でも、
50~60種類
の野菜や草花を
栽培している

[中山間C、2011地元学調査より]

●わが国の地方圏(中山間地域)＝細やかで多様な山、谷、津々浦々

少量多品種の「ロングテール」の活用・循環が重要



●生産量(高)

ロットレベル

グローバル
(国際)

ナショナル
(全国)

地方都市圏

集落圏

世帯

*小ロット、現地消費
のオンリーワン観光

地元サイクル

海外からのインバウンド観光

グローバルサイクル

大都市・国際拠点

ナショナルサイクル

地方都市・広域拠点

ローカルサイクル

集落圏・「小さな拠点」

従来重点

今後: 域内循環系も同時に強化し、ロングテールを活かす

地域の個性

●種類

重層的な拠点・ネットワーク構造の構築
＝「集中」と「分散」の統一的設計

循環型社会
OSづくり

●一次循環圏(集落圏⇔小さな拠点＝複合輸送)、二次循環圏(小さな拠点⇔広域ハブ＝複合輸送)、三次循環圏(域外循環＝大量・専門輸送)の重層的設計へ

◎地方都市・広域拠点
《＝広域ハブ》

二次循環圏の広域ハブで「荷解き」
＝「規模の経済」⇔「範囲の経済」への結節拠点

●域外循環
大量輸送
専門性
【規模の経済】

◎小さな拠点
《＝地元ハブ》

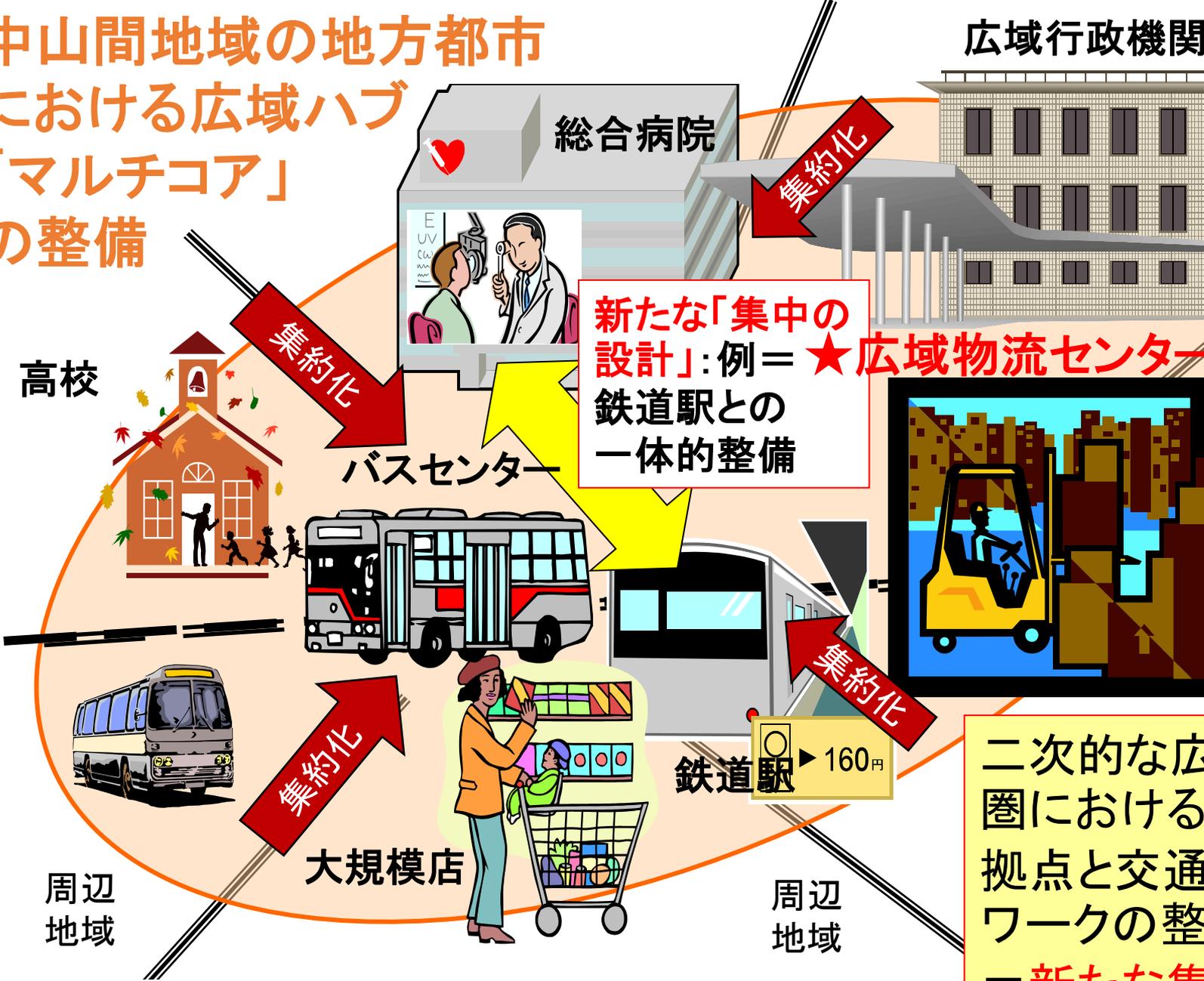
●域内循環
複合輸送
(少量多品種)
郷の駅を經由し
各地区・集落へ分配

一次域内
循環の強化

二次域内
循環の強化

リアルタイムの情報ネットワークによる最適輸送

中山間地域の地方都市 における広域ハブ 「マルチコア」 の整備



広域行政機関

総合病院

集約化

集約化

高校

新たな「集中の設計」: 例 = ★広域物流センター
鉄道駅との一体的整備

バスセンター

集約化

集約化

大規模店

鉄道駅 ▶ 160円

周辺地域

周辺地域

真のコンパクト化とは、農山漁村の切り捨てではなく、広域的な結節機能の複合的集約化

二次的な広域生活圏における拠点と交通ネットワークの整備手法 = 新たな集中と分散の階層的再構築

周辺 = 分散だからこそ、中心 = 集中化が必要

「規模の経済」

都市と田園の二軸を
両立させ、持続可能な
バランスある国のかたちへ

